

平成 18 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

平成 18 年 7 月 10 日
静岡県病害虫防除所長

対象病害虫名 ミナミアオカメムシ

対象作物名 イネ、ダイズ等

1 発生経過

- (1) 平成 17 年 9 月に、磐田市の農業試験場内に設置した予察灯に捕獲されたカメムシの中にミナミアオカメムシと思われる個体を発見した。
- (2) 発見されたカメムシを井上智雄氏（半翅類学会会員）に同定依頼したところ、ミナミアオカメムシであることが確認された。
- (3) 池田二三高氏（元農業試験場病害虫部長）により、平成 18 年 1 月に磐田市内で越冬している個体も確認された。
- (4) 平成 18 年 5 月に中部から西部地区のコムギに寄生しているのを確認した。

2 学名、形態及び生態

- (1) 学名： *Nezara viridula* (Linnaeus)
- (2) 和名： ミナミアオカメムシ
- (3) 形態：

成虫は、体長 12.0 ～16.0mm で、アオクサカメムシによく似ているが、体がやや縦長に見えること、触角第 3 ～ 5 節の前半部が褐色（アオクサカメムシは黒色）、半翅鞘革質部の下の腹背部が帯緑色（アオクサカメムシは黒色を帯びる）であることなどで識別できる。

幼虫はアオクサカメムシと見分けることは難しいが、1 ～ 3 齢幼虫は体色の違いにより見分けることができる。4 ～ 5 齢幼虫は見分けがつかない。

- (4) 生態：

九州では年 3 ～ 4 世代を経て、成虫で越冬する。越冬は比較的乾燥した場所を好み、枯れたイネ科植物で覆われた地表面や積み藁の中、常緑樹の樹冠部など様々である。越冬成虫は 4 月上旬から活動を開始する。成虫の体色には遺伝的変異が多く、アオクサカメムシと同様の色彩型がある。

幼虫は雑草やダイズなどのマメ科の作物、イネなどで生育する。

3 被害及び寄主植物

広食性で 3 2 科 1 4 5 種の植物を吸汁することが知られている。また、イネのモミを吸収して斑点米を産出する。他の斑点米カメムシに比べ体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなる。ダイズでは莢内の子実から吸汁するため、莢は落ちるか肥大せず緑色のまま収穫期まで残る。

4 防除法

- (1) 予察灯の誘殺数により、発生状況を確認する。
- (2) 寄生を確認したら、農薬の登録内容と収穫前日数に注意して、薬剤散布を行う。
- (3) 不明な点については、病害虫防除所か農業試験場に問い合わせる。